

2020年（令和2年）度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学

目 次

はじめに	1
I. 学校法人京都外国語大学事業計画	2
財務運営に係る事業計画の骨子	
重点取組	
1. 学園施設整備計画「学園整備マスタープラン」の策定	
2. 寄付（募金事業）の推進	
3. 高等教育無償化政策への対応	
4. 人材育成に係る研修等の制度の充実	
II. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画	4
ミッション	
目的	
重点取組	
各部署取組	
各学科行事等	
III. 京都外大西高等学校事業計画	11
高校のビジョン	
方針	
重点取組	
主な取組内容	
IV. 京都外国語専門学校事業計画	13
専門学校のビジョン	
方針	
重点取組	
(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的	
.....	15

はじめに

周知のように、2020年度以降の私立学校、特に私立大学・短期大学を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面を迎えると予測されている。18歳人口の本格的な減少による大学淘汰の本格化など、大学間の競争が激しくなる中、どの私立大学・短期大学でも、自律的なガバナンスを確保し、併せて経営を強化し、より強固な経営基盤に支えられ時代の変化に対応した大学づくりを進めているところである。また、各私立高等学校、専門学校においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保などにも懸命な対策が執られている。

本学園は、2018年度には大学に国際貢献学部を開設、先進的な教育プログラムへの取組を本格化させ、2020年4月には外国語学部ロシア語学科の開設をするなど、時代の変化に対応した学園として一層の充実を図っているところである。

各設置学校においては、国の私学関係予算などにも留意しながら、運営の根幹につながる入学志願者の安定的確保や財務基盤の維持等に最大限の力を注いで、教学部門・経営部門の運営にあたることとしている。



2020年度における学校法人京都外国語大学の事業計画について、次ページ以降に、

- I 「学校法人京都外国語大学事業計画」に続き、4つの設置学校について、
- II 「京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画」、
- III 「京都外大西高等学校事業計画」、
- IV 「京都外国語専門学校事業計画」の順で、その概要を簡潔に説明する。

【注】以下、適宜、京都外国語大学を「大学」、京都外国語短期大学を「短期大学」、両者に大学院を加えて「本学」、京都外大西高等学校を「高等学校」、京都外国語専門学校を「専門学校」などと表記している場合がある。



I. 学校法人京都外国語大学事業計画

【財務運営に係る事業計画の骨子】

学園の財務運営については、安定的な財務基盤の確立を基本としており、限られた財源の中で「事業の選択と集中」をより強化し、危機感とスピード感を持って経営改革に取り組み、将来に亘っての安定的な財務基盤構築を目指しながら、教育研究活動と教育研究環境の持続的な充実を図る。

【重点取組】

1. 学園施設整備計画「学園整備マスタープラン」の策定

学校施設に関しては、災害発生時にも学生等の大切な命を守り、地域の避難所としての役割も果たすことから、その安全性を確保することは全ての学校施設が備えるべき基本的な条件である。本学でも、学生等の安全を早急に確保するべく、早期の耐震化完了を見据えた建設計画として「学園整備マスタープラン」を策定する。

また、施設・設備修繕に関しては、老朽化設備等の段階的な更新のほか、保全計画を立案し、順次予防保全を実施する予定である。

2. 寄付（募金事業）の推進

学校法人の財政が厳しさを増す中、寄付金収入を安定的に確保することは重要な課題となっており、本学でも周年記念事業としての臨時的な募金事業ではなく、経常的な募金事業を行っているところである。今後、募金事業を事業戦略として位置づけるため、組織・人員の確保を含む募金事業推進体制の整備、寄付者数・寄付金額増加のための取組内容の検討を行う。

3. 高等教育無償化政策への対応

高等教育の修学支援新制度について、2020年度も引き続き本学（大学・短期大学・専門学校）が要件を満たす機関として認定を受けるための手続きを進めるほか、支援対象となりえる学生が申し込みの機会を逸するなどの不利益を受けないよう、学内各部署が連携しながら、より一層制度の周知に取り組むこととしている。

4. 人材育成に係る研修等制度の充実

2016年度に導入した教職員の評価制度では、評価の実施と同時に各自のキャリアを考えるキャリア申告・キャリア面談を組み入れており、個々の教職員の能力向上の機会として活用し、人材育成の強化を図っている。その他、管理職対



象のマネジメントに係る研修、学園の将来を支える若手・中堅教職員対象の研修など、各教職員のキャリアパスを見すえ、職階別研修を計画的・組織的に実施することになっている。

また、大学職員・社会人として、職員の自主的なスキルアップ支援のために、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学協会、大学コンソーシアム京都など大学関連団体等が実施する研修会への参加の機会を引き続き設ける。



Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

【ミッション】

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、

- ① 確かな日本語力と実践的な外国語運用力
- ② 社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の文化の理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成する。



【目的】

1. 京都外国語大学

外国語学部は、専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成する。

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成する。

2. 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

3. 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいうべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。

これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾15頁以降参照。



【重点取組】

1. 国際貢献学部及び外国語学部ロシア語学科の成功に向けた取組及び教育課程の再編計画の実施。
 - ・国際貢献学部、ロシア語学科の募集力強化のための広報施策継続。（広報室）
 - ・国際貢献学部のコミュニティエンゲージメントプログラムにおける学生及び教員支援（コミュニティエンゲージメントセンター）
 - ・ロシア語学科の博物館課程学芸員課程及び司書課程の令和3年度開設に向けた準備。（教務部）
 - ・外国語学部、国際貢献学部及び短期大学の各学科が掲げる目標達成のため、令和4年度に向けた教育課程の整備。（教務部）
 - ・国際貢献学部が3年目を迎えるにあたり、引き続き授業運営の円滑実施。（教務部）
 - ・国際貢献学部に係るAC報告・AC教員審査の提出、ロシア語学科開設に関する手続等に対する、学内部署との協働。（総務部）
 - ・国際貢献学部における蔵書構成の基本的方針の確立及びロシア語学科用図書
の配架。（図書館）

2. 志願者増及び質の高い入学者の確保。
 - ・志願者8,000人台を確保、関関同立に並ぶ位置を確保。（広報室）
 - ・ロシア語学科に高いレベルの入学者を迎え入れるため、各種入試制度での判定作業をより精緻なものとする。（入試センター）
 - ・英検等検定試験のスコアをより広範に活用し、高い学力の志願者を集める。（入試センター）
 - ・併設高校との接続をより密にし、同校からの志願者の量・質の向上を図る。（入試センター）
 - ・国際貢献学部の外国人留学生の募集人員枠を恒常的に充足するため、国内外から外国人留学生の志願者を増加させるための方策を行う。（入試センター）
 - ・高校訪問・進学相談会・高校内ガイダンス・出張模擬講義を積極的に行い、志願者増を図る。（入試センター）
 - ・本学の教育力を強みにブランド力の強化を行い、志願者の増加、学力の高い志願者の確保に向けた広報を行う。（広報室）

3. 教職員研修（SD）の充実
大学運営をより高度化するため、全ての大学等に義務付けられたSDについては、専門性と資質の向上のための取組を推進するとともに、基本方針と年次計画を定め、計画的に取組を推進することとしている。



4. 第2期5カ年計画の推進

今日の高等教育における質保証の動向を踏まえ、建学の精神に基づく国内外への情報の発信と次世代リーダーの養成を図り、社会的な説明責任の要請等に応えていく観点から、大学・短期大学にあっては、2013年度、学長のもとに当該策定委員会等を設け、本学の教育理念及びその具体的な教育目標等を念頭に所要の検討を行い、大学及び短期大学の「5カ年計画」（計画期間：2013年度から2017年度）を中期将来計画として定めた。

2018年度からの第2期5カ年計画（計画期間：2018から2022年度）について、学内外の状況変化に対応した実現性のある「5カ年計画」を推進するため、令和元年度に軌道修正を行い、以下の3つの重要政策を策定し、計画の完遂を図っている。

《重要政策》

- (1) 外国語学部・国際貢献学部・短期大学のカリキュラム見直し、および大学院の再構築
- (2) 内部質保証システムの確立
- (3) 大学の主要重点事業の明確化と骨太の大学運営

5. 教学事務システムの再構築

長期間にわたって安定的なシステム運用ができるよう学務関連の事務システム及び学生支援システムを再構築する。これにより、乱立しているシステムを整理・統合し業務の効率化を図る。また、データ化されていない卒業生及び退学・除籍者の学籍簿、成績原簿及び成績証明書について、画像及び属性データを作成・入することによって検索機能の活用を可能にする。

【各部署取組】

1. 総合企画室

- 《学長の意思決定のサポート役として各部署に最適な指示を出す。》
- ・新時代を迎える本学において、将来構想（ロシア語学科始動、外国語学部・大学院再編等）の策定を行う。
 - ・第Ⅱ期「五カ年計画」の遂行。
 - ・大学重点目標の実現に向けIR機能を活用し、バックアップ体制を確立する。
 - ・新たな自己点検評価の体制とシステムの構築。

2. 総務部

- 《大学運営の全般を担う部署の役割を実行するため、職員の質を向上させるとともに適正な業務協働を推進する。》
- ・日常業務及び部署における基礎知識+aの知識を身につけ、職員の資質向上に努める。
 - ・部署間、個々間における連携の強化を図るとともに、コミュニケーション



力を身につける。

- ・学生の师表となるよう職員としての知識、行動、姿勢、言語等研鑽する。
- ・後援会の事業計画等の実施について協働し、団体の本来の事業目標の達成と運営の活性化に寄与するとともに、後援会事務局として業務の見直しを図る。

3. 広報室

「ブランド力・募集力の強化」

- ・京都外大ブランドを構築、各種調査の「国際性」「教育力」で上位を獲得。
- ・英米語学科強化のための広報プロジェクト立案・実施。

4. 教務部

「令和4年度外国語学部、国際貢献学部及び短大の教育課程見直しに向けて引き続き準備を進めるとともに、更なる業務改善を進める」

- ・学務関連の事務システム及び学生支援システムの再構築（前述）
- ・1999年度以前の卒業生及び退学・除籍者の学籍簿、成績原簿及び成績証明書のデータ化及び活用。（前述）

5. 学生部

「多様化する学生の学生生活が充実するためのサポートを行う」

- ・健康サポートセンターの学生サポート体制の充実。
- ・クラブ・サークル活動や授業外活動等の充実に向け、関係部署との連携を積極的に行う。
- ・高等教育無償化への対応（前述）
- ・各種奨学金制度の周知徹底と関連する業務の合理化を図る。

6. 国際部

「大学全体の国際化をリードする」

- ・海外留学・渡航の促進（①量的・質的双方の向上をはかる。②官民協働留学支援制度等への申請・採択の増加をめざす。）
- ・学内留学環境の整備（留学生と日本人学生が共に学び、交流可能となる環境の整備と機会の提供。）
- ・海外協定大学等との連携強化（派遣留学+α（インターンシップ等）を組み合わせた新規制度の設定・実施をめざす。）

7. キャリアセンター

「昨年度に匹敵する就職率を堅持し、学生の満足度を向上させる」

- ・学生一人ひとりの就職活動状況を的確に把握し、きめ細やかに指導する体制を構築する。



- ・就職先として学生が目指せるよう、一部上場企業や中堅中小優良企業との関係性を強化する。
- ・低年次から就職環境を理解し、将来設計が描けるよう機会を提供する。
- ・留学生、障がい学生等固有のニーズを持つ学生への支援に注力する。
- ・職員の研修、ワークショップへの積極的参加を促し、キャリア支援の資質向上を目指す。
- ・国家資格キャリアコンサルタントの資格取得を積極的に推奨する。

8. 入試センター

「本学特有の語学検定試験型入試制度の確立のために努力を継続し、入学者全般の学力の向上を図る」

- ・従来の各入試制度に改変を加え、より実効性の高いものにする。
- ・高校生や高校教員への対人広報をさらに強化する。

9. コミュニティエンゲージメントセンター

「コミュニティエンゲージメント活動の内容のさらなる充実化と、効果的且つ円滑な運営」

- ・コミュニティエンゲージメントプログラム1年目の実績を点検し、既存プログラムの内容の充実、実施体制の強化及び新規プログラムの補足的開発。
- ・コミュニティエンゲージメントプログラムと「Community Engagement Workshop II」との関係性について学科と協働して見直し、効果的なプログラム運営を図る。
- ・学生の事前教育の強化等、危機管理指導の充実を図る。
- ・他部署と連携し、危機管理体制の整備・充実を図る。
- ・学生の社会貢献に関する基礎的な経験を支援する仕組みを構築する。

10. ランゲージセンター

「正課外学習支援の質的向上と地域へのエンゲージメントの基盤整備」

- ・学生の正課外での学習を支援する。
- ・学生の実践コミュニティ形成への協力体制構築と支援。
- ・各語学検定試験の説明会、対策講座実施。
- ・生涯学習講座開講。
- ・e-Learning(USE)実施。
- ・ラーニングコモンズ運用。
- ・NINJAにおけるセッションの学生の多様な現状に沿った形への移行とその質的向上。

11. 附属図書館

「学生の図書館利用促進に向けて活動する」



- ・ 学生が図書館を有効に活用できるような施策の実施。
- ・ 業務の三要素（①資料の収集、②資料の整理・蓄積、③資料の提供）の理論に基づき、利用者へのサービス向上を目指す。
- ・ 蔵書構成の特徴である「対外交渉」や「欧米人による日本研究」などを中心にした稀覯書から、最大限の付加価値を抽出する。
- ・ 「特徴ある図書館活動」の展開と、文化的発信を行い、大学全体のブランド力強化に繋げる。
- ・ 飽和状態になりつつある書庫への対応。
- ・ 京都国連寄託図書館の併設に伴う運営。

12.国際言語平和研究所

「研究環境の改善と研究支援の充実」

- ・ 各教員に合わせた最適なサポートを行い研究向上に尽くす。
- ・ 不正行為の抑制および適正な研究活動・研究費執行に向けたコンプライアンス教育を実施する。
- ・ 科学研究費補助金をはじめとする外部競争的研究資金の獲得増進及び支援体制の充実
- ・ 紀要『研究論叢』『COSMICA』の発行
- ・ 学内学会「国際言語文化学会」の充実
- ・ 学部（学科）予算の作成・執行および学部（学科）主催行事を支援し、教育向上に尽くす。
- ・ 年度予算に基づき、国際文化資料館の特色を生かした展覧会・公開講座を企画・開催する。

13.京都外国語大学ラテンアメリカ研究所

「ラテンアメリカ研究所を学術研究機関として位置付け、研究活動を活性化させる」

- ・ 定期的にIELAK研究会を開催するほか、研究講座を所員の研究発表の場として活用する。
- ・ 研究成果を紀要及びIELAK Publication Series（仮題）として出版する。
- ・ 教養講座をはじめとするラテンアメリカに関わる講演会・研究会・セミナー等を企画・開催する。
- ・ ニュースレターを年2回発行し、研究所の学問的取り組みを一般市民にも公開する。
- ・ 研究所のホームページの内容を整備し、活動の情報を広く発信する。



【各学科行事等】

本学のキャンパス国際化推進の一環として取り組んでいるナショナル・ウィークは、2020年度に10年目を迎えることから、これまでの経験を活かしながら開催方法を再検討して取り組む。また定期的に行っている各学科主催の弁論大会や各種講演会等も同様に、学生・教職員が協力し、できるだけ多くの市民にも参加してもらえるよう工夫も凝らし、大学・短期大学の良さをPRしていく考えである。

Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

【高校のビジョン】

建学の精神「不撓不屈」に則った総合的人間育成

本校の建学の精神は、本学園創立者の出身地、会津若松の藩校「日新館」の教育において、「不撓不屈」の精神をもって断固として困難に立ち向かう「ならぬことはならぬ」の教えが貫かれていたことに由来しており、「なし得ること、なさねばならぬことはたとえどのような困難をともしなう場合であっても、不撓不屈の精神をもって断固として貫徹せよ」との教えである。本校での様々な活動を通じ、複雑な現代社会をこの「不撓不屈」の精神で「強く、正しく、明るく」生き抜く生徒を育成する。

【方針】

建学の精神「不撓不屈」・校訓「強く 正しく 明るく」を人間育成の根本として、生徒のグローバル社会及び変化の激しい未来社会を生きる力を育む。また、京都外国語大学との連携を深めながら、英語教育の充実、IT化への取り組みを行う。

【重点取組】

1. 経営改善計画の着実な実行。

2019年式教育課程の実施は下記にもあるように、教科活動のスリム化、効率化を図り経費の削減に寄与するものである。今後、2019年度入学生からの教育課程の検証を実施し、問題点の精査・検討を行いながら、2022年式教育課程の研究をし、効率化をさらに進行できるよう検討を進める。また、昨年新たに再出発した同窓会組織を有効に活用し、寄付金募集等の支援策を検討する。特待生は原則当面採用しない。

私学中高連合会における申し合わせにより、本校の募集数は280名とする。

2. 本館及び体育館等の建替に向けた計画推進。

設置基準を堅持しつつ、仮校舎の建設を回避する方式等により、できうる限り建設経費を抑制する計画を進める。

3. ICT教育促進のための研究強化

新校舎建設と連動し、日本私学教育研修所主催のICT、イノベーション、国際理解等に関する研修を始め、各種研修・校内研修を進める。

4. 働き方改革に向けての教職員業務のIT化推進

ICTの有効活用により、先進的取り組みにより、働き方改革に対応している学校事例を研究するなどして、教科指導準備・評価・考査・クラス担任業務・クラブ活動



業務において業務の効率化の進め方を教学部門・事務部門が強調して、校内の委員会組織を中心に研究を進める。また、新学習指導要領に謳われているアクティブ・ラーニングの手法による「主体的、対話的、深い学び」の実践を拡大するなどSociety 5.0といわれる時代を生き抜く若者の育成を期して、ICT教育の研究を一層進めるながら、校内研修の内容を改善し、視野の広い教員の育成に努める。

5. 関西高校模擬国連大会

本大会は30回の節目をむかえる記念大会としてふさわしい内容を検討し、6月に開催予定である。

6. 高大連携の一層の推進

高等学校諸行事での大学関係者の講演、広報活動や、ナショナルウィークなど大学関係諸行事の共有などを通じて、これまで以上に高校生徒の大学への関心を高める。また、京都外国語専門学校との連携も一層強め、内部進学者の増加策を進める。



IV. 京都外国語専門学校事業計画

【専門学校ビジョン】

1998年に「アジアを学ぶ」をテーマに誕生した本校は、京都外国語大学のグループ校として、建学の精神「言語を通して世界の平和を」を掲げ、実践的で堪能な外国語能力の養成を図り、その能力を基盤として、多様な社会の要請に即応し得る専門的スキルを習得させるとともに、常に人格の陶冶に努め、広く海外文化に通じ、幅広い国際的感覚と国際社会人としての豊かな人間性を身につけた、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。

この目的を達成するため、

- ① 専攻語の確かな運用力
- ② 豊かな人間性及び教養
- ③ 発信力・コミュニケーション能力

を備えた人材を育成する。

【方針】

前年度に引き続き、定員+aを確保し、安定した財政基盤を確立する。

【重点取組】

1. 高等教育無償化への対応

高等教育の修学支援新制度について、2020年度も引き続き本校が要件を満たす機関として認定を受けるための条件整備を進めるほか、支援対象となりえる学生が申し込みの機会を逸するなどの不利益を受けないよう、在校生、新入生、入学希望者などへより一層制度の周知に取り組みたい。

特に条件整備のうち、学校関係者評価については、実施と公表はもとより、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に向け、評価結果を活用することとしている。

2. 学生指導の充実（卒業生の進路確保、在校生の中退率削減、語学力向上）

学生の満足度を向上させるために、①進路カウンセリングなどを充実させて、一人一人をフォローアップすることで、在校生の中途退学者を減少させると共に、編入や就職など学生一人一人の希望進路を達成させるための専攻語学運用能力を高めるための取組を行う。合わせて、②各学科の専攻語学に関する検定試験をカリキュラムの中に位置づけ、到達目標を明確にさせながら目標達成に向けて学生をサポートする教務体制を構築する。

3. IT化推進及びICT教育環境の整備

IT化推進の方針は以下の通り。



- ①法人と専門学校の間専用線を敷設し法人側のネットワークに参加し、業務の効率化を図る。
- ②長期間にわたり継ぎ足してきた教務システムを安定的な運用ができるよう学務関連の事務システム及び学生支援システムを再構築し業務の効率化を図る。
- ③学内のWi-fi環境を再構築し、国立情報学研究所が提供しているeduroam JP (エデュローム ジェイピー) の認証ネットワークに参加し、学術無線LANローミング基盤サービスであるeduroamに接続するWi-Fi環境を整備し、ICT教育に向けての環境を整える。
- ④第2マルチメディア教室のPC40台を更新する。



3つのポリシー

京都外国語大学
外国語学部
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。</p> <p>① 構想するために必要な力 私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力 自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 協働するために必要な力 立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に学内統一試験や外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。</p> <p>③ 専攻語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p> <p>② 必修科目における外国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。</p> <p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。</p> <p>【学習成果】</p>



- ① 語学力の育成
大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。
- ② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力
専攻する言語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。
- ③ 世界が抱える諸問題の理解
専攻言語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

本学部では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験や統一試験におけるスコア
- ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は
https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html#_02
に掲載。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人
- ④ 外国語を学ぶ上での適性と基礎学力を有する人

京都外国語大学

国際貢献学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成することを目的としている。

その実現のために、世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことができる人材を養成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、専門科目に加えて必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に大別している。

【教育内容】



- ① 専門科目のコア科目では、本学の建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS (言語を通して世界の平和を)」を理解し、学科で学ぶ基本的姿勢を身につけ、関連する Community Engagement を通して理論と実践の合一を目指す。(2 学科共通)
- ②-1 専門科目の国際協力コース科目では、世界平和・世界秩序に関する幅広い知識と、人類に共通する地球規模の課題解決に貢献するために必要な実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培い、グローバルビジネスコース科目では、経済・社会の発展と人類普遍の価値目標である「豊かさ」に関する知識及びビジネスを通して国際社会に貢献するために必要な実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培う。また、コース共通科目では、国際協力とグローバルビジネスの両コースに関連する専門科目を通して、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究する。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 専門科目の観光政策コース科目では、地域が持つ固有の価値を尊重し、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展を可能とするために必要な知識と実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培い、観光ビジネスコース科目では、観光ビジネスに必要な幅広い知識と基礎理論、即戦力となる実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培う。また、コース共通科目では、観光政策と観光ビジネスの両コースに関連する専門科目を選択し、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究する。(グローバル観光学科)
- ③ グローバル社会で活動するための英語運用能力と第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にすること。(2 学科共通)
- ④ 教養科目では、実践的な教養教育をめざすとともに、広く国際人として活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができる。(2 学科共通)
- ⑤ 日本学インスティテュート科目では、日本独自の社会・制度・文化・価値観等について、外国人留学生と日本語を母語とする学生がともに英語で学び、日本に対する理解力と発信力を高める。(2 学科共通)

【教育方法】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。(2 学科共通)
- ②-1 多文化環境の下で学び、異文化間コミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行う。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 専門科目は国際的な観光文化都市である京都の立地条件を活かして、企業や地域社会と連携した「実学的・実践的な教育」を行う。(グローバル観光学科)
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。(2 学科共通)

【学習成果】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。
- ②-1 問題発見力・解決力
社会の急速な変化の中において問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動することができる。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 問題発見力・解決力
地域固有の価値を尊重しつつ、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展に資する新たな価値を創造することができる。(グローバル観光学科)
- ③ 多文化共生力
深い異文化理解力と高度なコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、国際社会や組織、コミュニティに貢献することができる。
- ④ 国際協力ないしグローバルビジネスに関する専門的学際的知識・技能の活用力
経済学、経営学、法学、社会学、文学といった異なる学問分野の専門的学際的知識・技能を活用し、課題を解決する。(グローバルスタディーズ学科)
- ④ 観光政策ないし観光ビジネスに関する専門的学際的知識・技能の活用力
観光学、政策科学、経営学、社会学、文学といった異なる学問分野の専門的学際的知識・技能を活用し、課題を解決することができる。(グローバル観光学科)

【評価】(2 学科共通)

卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価する。



<ul style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② Community Engagement の活動内容や成果報告 ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告
アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）
<p>国際社会に貢献することに強い意欲を持つ人材を求める。</p> <p>グローバルスタディーズ学科</p> <p>【求める学生像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人 ② 何事も主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人 ③ 外国語のコミュニケーション能力を駆使して、積極的に国際理解を推進しようとする人 ④ 国際社会のさまざまな諸問題に興味や関心を持ち、国際協力に従事したいと考えている人 ⑤ 国際ビジネスの専門的知識を身につけて、国際社会で活躍したいと考えている人 <p>グローバル観光学科</p> <p>【求める人材像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 何事にも主体的に、積極的に取り組む意思のある人 ② 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人 ③ 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、実践的な外国語のコミュニケーション能力を養うことによって、国内外のグローバルな環境で活躍したい人 ④ 観光を通して地域の活性化に貢献したい人 ⑤ 国際観光文化都市・京都をはじめ国内外の観光資源に興味を持ち、観光政策を立案・実践したい人

京都外国語大学
大学院外国語研究科
ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）
<p>外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）
<p>外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。</p> <p>博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語と文化の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。</p> <p>博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。</p>
アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）
<p>本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求め</p>



<p>る。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>博士前期課程</p> <p>① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人</p> <p>② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人</p> <p>③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人</p> <p>博士後期課程</p> <p>① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人</p> <p>② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人</p>
--

京都外国語短期大学
キャリア英語科
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
<p>キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）
<p>キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。</p> <p>③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画内に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p> <p>② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。</p> <p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。</p> <p>【学習成果】</p> <p>① 語学力の育成</p> <p>大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々と</p>



の円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。

② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力

英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。

③ 世界が抱える諸問題の理解

英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

キャリア英語科では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績

② 語学の到達度を測る資格試験におけるスコア

アドミッション・ポリシー (入学者受入に関する方針)

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力と、ビジネスの分野に必要な知識・技能を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人

② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人

③ 幅広い知識とビジネススキルの修得に意欲を持っている人

④ 観光文化・観光ビジネスの分野に興味や関心を持っている人

⑤ 学力を活かして4年制大学に編入学を望む人

⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人



【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域・文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。



ロシア語学科	専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
国際貢献学部	
世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことによってグローバル社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。	
グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
グローバル観光学科	観光に関するグローバルかつ総合的な観点から、様々な地域の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

前期課程	
広い視野に立って精深な学識を受け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ラテンアメリカ、東アジアの3地域を軸にした言語・文化の専門的知識や国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
実践言語教育コース	創造的でかつ柔軟な対応力を備えた英語教育又は日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
後期課程	
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。

【京都外国語短期大学 学科の目的】

キャリア英語科	
アカデミックとビジネスの2つのコースを有することを活かし、実践的な英語力と国際活動に必要な教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
アカデミックコース	グローバル化時代の担い手として通用する発信型国際人に求められる能力を修得することを目的とする。
ビジネスコース	職場で働くための基本能力、表現力、社会人基礎力、国際人としての教養等を修得することを目的とする。